

工学系研究科建築学専攻所蔵 旧備品台帳 (一)

旧工部美術学校所蔵資料

角 田 真 弓

一 はじめに

図書目録や備品目録は目録ではあるが、現状に関わらず記載された当時の資料状況を表すことから、図書や史料同様一時史料としての意味を持つ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻（以下建築学専攻と称す）には明治三十二年（一八八九）より昭和二十六年まで使用した備品台帳（以下旧備品台帳と称す）が存在する。そこで建築学専攻に引き継がれた旧工部美術学校所蔵資料の一部を含む石膏像、寒水石彫刻の目録を紹介したい。

二 工部大学校と工部美術学校

まず先行研究を整理したい。工部大学校（工学寮）に関する研究は、三好信浩^①氏による先駆的研究のほか、近年では鈴木淳^②氏、柏原宏紀^③氏らにより、教育機関としてのみならず近代日本の産業改革における役割が解明されつつある。こと建築の分野に於いては、日本における初めての建築教育機関として、関野克^④氏、村

松貞次郎^⑤氏、清水慶一^⑥氏により教育内容に関する分析がおこなわれている。

同じく工部美術学校に関しても、隈元謙次郎^⑦氏による研究をはじめとして、青木茂^⑧氏、尾崎尚文^⑨氏、金子一夫^⑩氏らにより教育内容のほか、生徒の動向を含め多角的な研究が行われている。これら先行研究において詳細な内容が検討されているが、ここでは簡単に建築学専攻の歴史的経緯を説明したい。明治政府の近代工学教育構想のもと、工部省に明治六年工学寮が開校し、一〇年には工部大学校と改称された。開校当時の専門科は土木学、機械学、造家学（建築学）、電信学（電気工学）、実地化学、冶金学、鉱山学（採鉱学）の七学科である（冶金学には専任教師が不在であったため実質的には六学科であった。また明治一六年には造船学が機械学より独立した）。その後、明治一八年一二月工部省が廃省され文部省の管轄となり、同月に東京大学理学部より独立した工芸学科と合併し、翌一九年に帝国大学工科大学造家学科となる。造家学科は明治三一

年に建築学科と改称、工科大学は東京大学工学部へと引き継がれ、現在に至る。

一方で工部省には「欧州近世の技術」を「百工の補助」^①とするための美術教育機関も設けられた。イタリア人教師を迎え明治九年一月予科、画学科、彫刻学科をもつ工部省工学寮美術学校が開校、翌一〇年一月には工部省工学寮が工作局管轄となり、工作局美術校と改称、さらに六月には工部美術学校と改称された。しかし西洋美術アカデミーに比肩する学校にという当初の構想は叶うことなく、いくつかの事情が重なり明治一五年には最後の彫刻学科生徒が卒業・修業をし、翌一六年一月には画学科生徒が修業して廃校となった。

工部大学の御雇外国人教師はヘンリー・ダイヤー (Henry Dyer) を中心としたイギリス人を中心として構成されており、一方の工部美術学校はアントニオ・フォンタネージ (Antonio Fontanesi) に代表されるイタリア人教師が勤めており、両校間での直接的な交流は開校期間にはほとんど確認できない。廃校以降の状況を見ると、工部大学の教師であったジョサイア・コンドル (Josiah Conder) は工科大学においても明治二四年まで講師として教育を続ける一方、工部美術学校のイタリア人教師は当初の契約を終えると工科大学や他の教育機関に残ることはなく、それぞれが帰国の途についている。このように工部大学の教育は工科大学へと人的にも引き継がれたのに対し、工部美術学校を引き継ぐ組織は存在していなかった。しかし、工部美術学校で所蔵した資料は同じ工部省の管轄であった工部大学校へす

べて引き継がれ^②、さらには工科大学造家学科 (建築学科) へと引き継がれたという。これら旧工部美術学校資料は以前より隈元氏らによって部分的な紹介がなされているが、資料群として捉えることが可能となったのは、昭和六〇年に明治美術研究学会 (現明治美術学会) によって行われた調査^③に負うところが大きい。この調査結果をもとに近年では展覧会^④等に紹介される機会も増えているが、未だ全貌はつかめていない。そこで、旧備品台帳の紹介とともに内容の検討を行いたい。

三 旧備品台帳

(一) 形状の紹介

旧備品台帳はA4サイズ横書左綴、厚さは約六センチの製本されたもので、背には「備品監守簿」「第壹號」「工科大学建築学教室」と金文字が刻まれている。表紙を開けると中表紙に続き横罫紙が一〇頁あり、次頁より横罫に縦列で「年月日」「納入」「摘要(番号)」「物品監守者印」「細別品目」「員数」「内訳個数」「価格」「結末」「備考」覧が区分された頁が五九二頁で構成される。このうち、実際に使用されているのは三六一頁までで、また各品目はすべての欄が記入されているわけではなく、大半が年月日、番号、品目、員数、価格のみ記入されている。ただし、移管品や寄贈品に対しても価格が記されていることから、すべてが実際に購入したと考えるよりも、備品登録のために付した評価価格である場合が含まれると考えられる。

全頁を捲ると、明治二二年四月一日より昭和二六年一月までの日

付が見られることから、この期間が旧備品台帳の備品番号で登録をしていた期間と推測される¹⁵⁾。本来であれば明治三二年ではなく、工科大学への組織改編である明治一九年の日付から始められるべきであると考えられるが、工科大学本館が竣工するのは明治二十一年七月のことであり、組織の改編が行われた後も実際には工科大学の校舎が使用されていた。そのことから、虎ノ門旧延岡藩邸跡地に建てられた工科大学から本郷の工科大学本館への移転にともない備品の登録が行われたと考えることが妥当であり、実質的にこの数年間は工科大学の延長に近い状態であったのだろう。

(二) 項目

この旧備品台帳で挙げられている項目は、机や椅子等の什器のほか、製図機械類など製図道具や木材標本、釘標本などの標本類など多義にわたり、各々に備品番号がふられ、また必要に応じ追加されたりしく、項目数は最終的には一二〇にもほる。

横罫紙には六頁にわたる目次に続き凡例が九項目記されており、最後に「明治三一年九月九日以降 物品監守者 中村達太郎¹⁶⁾」と監守者の名前が記されている。別のページには「明治三五年一月一日以降 関野貞¹⁷⁾」との記述があり、監守の仕事は明治三五年には関野貞へと引き継がれたようだ。

ここで、背文字の「工科大学建築学教室」に着目したい。先に述べたとおり、この目録は明治三二年の日付から始められるが、明治三二年時点では学科の名称は「造家学」であり「建築学」と改称するのは、明治三〇年になされた造家学会から建築学会への改称後の

翌三一年のことである。後年、製本をやり直した可能性も考えられるが、凡例の日付が明治三一年九月であり、さらに明治三二年から三一年頃までの筆跡や筆記具の特徴が似ていることから、実際にこの台帳が使用され始めたのは明治三二年九月からであり、明治三二年から三一年九月の間には別の台帳が存在しており、その情報を書き写した可能性が高い。

以上が旧備品台帳全体の説明であるが、もう一点説明を加えたい。各品目には一重線、二重線が引かれている場合や、①、②、③、④の記号が記されている場合がある。線は品目の抹消を意味すると考えられ、また記号の説明が次の内容で表紙裏に添付されており、どちらも備品の状況を確認した際に加えられたと考えられる。

① 不要品として排出しせるもの

② 当科より他保管転換せるもの

③ 現物調査不能のもの

④ 調査記入されたもの

しかし、線、記号ともにいつの時点で記入されたものであり、かつ実態を反映しているかの判断については、現状調査が十分に行われていない現時点では困難なため、今回は記すのみとする。

四 目録の紹介

次に、二種類の目録の内容を紹介するとともに、分析を行う。

(一) 石膏像

「平」印「美術石膏製彫刻標本」と分類され、備品番号は四六〇

に及ぶ。内訳を見ると、明治三二年四月一日納入の石膏像は三三二点存在する。この納入日は工科大学への改組以前に所蔵していたことを意味すると考えられる。さらに明治美術研究学会の調査報告¹⁸⁾をみると、一部の石膏像には、旧備品台帳の備品番号とは異なる、「彫号」と工部美術学校と考えられる備品番号が確認されている。現状では工部美術学校の備品台帳は確認されておらず、唯一工部省の記録『工部省 美術 自明治九年至全十五年』には「開校中製スル所ノ物品観ルヘキモノニテヲ録シ之ヲ巻尾ニ載ス」として六五点の資料目録が記されており、両者を比較すると共通する品目が確認できる。

次に明治三七年四月一日に四点、一二月七日には七点が新海竹太郎の仲介により納入されている¹⁹⁾。慶応四年(一八六八)生まれ、彫刻家を志した新海は工部美術学校には入学せず、従来の徒弟制度のなかで西洋美術を学びヨーロッパへ留学、明治三五年の帰国後は東京帝国大学文科大学美学取調の嘱託となり、大塚保治の助手を勤める。また太平洋画会に参加し、明治三七年には新たに設立された同会研究所の彫刻部主任に就任した。この二点の品目を見ると、古典様式のキャピタル(柱頭)、エンタプラチュアと建築様式の雛形であり、西洋建築様式の基本的な教育資料として購入したことが想像できる。当時の自在画担当教官は塚本靖であり(後述)、新海と塚本は明治三五年の同時期にヨーロッパへ留学していた。両者の間には交流の記録が残されていることから、塚本の紹介により新海が作成もしくは仲介したと考えられる²⁰⁾。

翌明治三八年三月一日には三点、明治四〇年一月二三日には一点が、中丸精十郎の仲介で納入されている。天保十一年(一八四〇)に生まれた中丸精十郎は明治五年、川上冬崖の私塾聴香画館に入門、八年からは川上の出仕する陸軍兵学寮へ同じく出仕し、明治一六年まで戸山学校に画学教官として勤務する²¹⁾。一方、新たに誕生した工部美術学校へ一週三回画学生として明治九年入学する。一五年には修了し、その後は私塾と肖像画制作をおこなう。しかし、明治二八年一月には逝去し、翌二九年一月、息子の蓮一が精十郎を襲名した(以後、二世精十郎²²⁾と称す)。二世精十郎は明治二九年東京美術学校西洋画選科入学後、三二年退学。三三年には渡仏し、モザイク工場にてモザイクを学び、三五年帰国。表慶館の敷石モザイクも二世精十郎の手によるものであるという²³⁾。昭和一八年没。中丸の場合、工部美術学校彫刻科で学んでいたことから、工科大学建築学科との接点が想像されるが、三八年にはすでに逝去しており、納入者である中丸精十郎は二世精十郎のことを指す。三八年に納入された「モザイク標本」三点は二世精十郎の作品である可能性が高い。また、四〇年に納入した「着衣石膏」は寄贈であることから、父精十郎が画塾で使用していた石膏標本である可能性も考えられる。

明治四一年三月には三五点、五月には四二点の計七七点が高田慎蔵を介して納められる。明治期の輸入貿易商社である高田商会の創業者高田慎蔵²⁴⁾が仲介をして輸入したのであろう。コンドルが高田の自邸を設計したのは明治三三年であることから、輸入業者以上の関係があったとも考えられる。大正一三年一月には遠藤於菟に

より観世音菩薩が寄贈されている。彫刻家ではなく建築家である遠藤は明治二七年に工科大学造家学科を卒業、明治三八年には設計事務所を構えた。寄贈当時は五九才であった。

大正一五年七月には宮嶋一によりヴィーナス像が納められる。このヴィーナス像は現存し、工学部一号館図書室内に展示されている。像の裏には「宮島複製 東京府下日暮里渡辺町」と刻まれた楕円形金属プレートがあり、宮嶋が日暮里渡辺町（現荒川区東日暮里）にて石膏複製業を営んでいたことがわかる。国産の既製石膏像の早い事例であり、他所にも同様のヴィーナス像が確認されている²⁵。

昭和に入ると大内芳により複数回に分け三三点納入される。大内は後年石膏像修理を行った記録もあることから²⁶、仲介業者ではなく、制作もしくは近くに携わる人物であったのだろう。

(二) 寒水石

「ノ」印「寒水石彫刻標本」と分類され、備品番号は二二二まで、納入はすべて明治二二年四月一日である。彫刻学科のカリキュラムを見ると²⁷、石膏像製作の次に「大理石彫刻初歩飾物」と石材の彫刻が盛り込まれていた。金子氏の論文によると²⁸、ラグーザはイタリアより三点の大理石彫刻を将来したが、工部省は輸入石材ではなく国内産の石材を用いるよう指導し、明治一二年七月から翌年七月まで、アメリカ在住のイタリア人彫刻家トマソ・ガリアルド (Tommaso Gariardo) が採用され、ガリアルドは茨城県日立地方の石材を使用する事となった。建築学専攻には寒水石採掘場の写真も

残されており、生徒たちが実習で使用したのはこの寒水石であった。ゆえに、この二二二点の寒水石彫刻は生徒の作品であると推測される。

また、寺内は完成を見なかつたイタリア産大理石を彫刻学科卒業生の藤田文蔵が買い取ったとも記している²⁹。藤田は工部美術学校卒業後、彫刻専門美術学校を開校するが、すぐに廃校、その後東京美術学校の教授となる。大理石彫刻は藤田自身が作品を製作したのか、これらの教育課程の中で使用されたのであろう。

ここで、価格に目を転じてみたい。標本の大きさや購入時期を考慮する必要があるが、何点か価格の高いものが存在する。このうち、現在でも建築学所蔵が確認されている「キ14半身浮彫楕円額」「キ26欧州婦人半身浮彫額」「キ96コンテススケル半身像」はともにラグーザの作品であることが判明している³⁰。このことから、明治二二年時点でも、旧工部美術学校とひとくりに捉えるのではなく、誰の作品であるか承知の上で価値の判断がなされ価格が設定されたのであろう。

五 造家学科（建築学科）内での美術教育

工部美術学校における図画教育は先行研究において丁寧な整理がされているので、ここでは工部大学校、工科大学造家学科（建築学科）における図画教育を整理したい。

(一) 自在画

工部大学校造家学科に直接関わった最初の画家は曾山幸彦（大野義康）³¹であった。曾山は工部美術学校修業後、明治一六年二月

より工部大学校図画教場掛兼博物掛となる。実際のところ、工部大
 学校において写生や写景など自在画の教育がなされた記録はなく、
 曾山も「Museum Keeper」として名を連ねるのみで³²⁾、直接の指
 導を行った記録はない。工部大学の廃校後、明治一九年工科大学
 への改組により、曾山は造家学科助手として工部大学の教師で
 あったコンドル、辰野金吾とともに雇われる。この人事は、おそら
 く工部大学校に引き継がれた旧工部美術学校備品が工科大学造家学
 科へと引き継がれたためであり、物品管理者としての任務であろう。
 そのためか、この年度には「自在画」は科目として確認できない。
 翌二〇年になり、曾山が担当したと思われる科目「自在画」が第一
 年から三年まで毎週四時間開講する³³⁾。さらに翌二一年には曾山
 は助教授に昇格し、それは明治二五年に急逝するまでつづいた。

曾山の急逝をうけ、次に自在画を担当したのは同じく工部美術学
 校出身の松岡寿であった。松岡は明治二五年から三五年まで自在画
 講師として工科大学造家学科（建築学科）に勤める。当時の具体的
 な講義内容は不明であるが、建築装飾のデッサンが存在することか
 ら、素描が中心であったと考えられる³⁴⁾。

安政二年（一八五五）生まれ、明治一一年五月に工部美術学校に
 入学した曾山に対し、松岡は文久二年（一八六二）生まれ、明治九
 年に美術学校に入学している。松岡は年齢は下ではあるが学校では
 先輩となり、また絵画の技術も確かであった。フォンタネージの退
 職後、後任のフレッティの更迭が認められないことから学校を退学、
 十一会を結成した一人である松岡はフォンタネージに心酔していた

であろうが、一方の曾山の入学はフォンタネージの辞職直前のこと
 であり、約半年間しか指導は受けていない³⁵⁾。曾山が主に指導を
 受けたのは、画学科のフレッティとその後を明治一三年に引き継ぐ
 サンジョヴァンニ（Achille Sangiovanni）であった。

ここで工部美術学校と工部大学校を結ぶ接点が曾山幸彦であるこ
 とが解る。曾山は明治一六年工部美術学校画学科修業後、翌一七年
 には美術会を結成し美術学校を経営した。その美術学校は旧工部美
 術学校の備品を工部大学校より借り出し教材としていたという³⁶⁾。
 このことから、曾山は工部美術学校の備品に明るく、これら備品
 とともに身を置くことで、工部大学校、さらには工部大学校造家学
 科へと移動したことが容易に想像でき、また曾山の存在がなければ、
 造家学科での自在画教育はこのように始められなかった可能性も高
 い。工部美術学校画学科の核であるフォンタネージにはほとんど教
 育を受けておらず、作品にも影響が見られない曾山が、結果として
 短命であった工部美術学校の教育を備品とともに繋げたのである。
 松岡退職後の明治三六年になると、建築学科では画学専門の講師
 を雇い入れず、建築学科教授の塚本靖が兼任することとなる。この
 ような状態は大正一一年まで続いた。先に述べたとおり、明治三七
 年には建築様式雛形が購入されている。推測の域を超えないが、建
 築を専門とする塚本靖が自在画を担当することとなり、「自在画」
 科目の内容は変化したのであろう。つまり塚本の意向により西洋建
 築の雛形が自在画の教育にもたらされ、より建築に直接的な内容と
 なったと考えられる。

他の科目が増えたこともあり、「自在画」科目は明治三四年には時間数が三時間へと減少し、さらに大正四年からは二、三年では必修科目から選択科目に、大正八年には一年のみの必修科目となる。その後、大正一一年から昭和一七年は石井柏亭（満吉）⁽³⁷⁾が、昭和一七年から二一年は木下義謙⁽³⁸⁾が自在画の講師となる。

(二) 彫塑

一方の彫塑が建築学科の教育課程に導入されたのは、大正八年のことであった。担当した講師は明治三七年に石膏像購入を仲介した新海竹太郎である。当初は独立した科目として存在せず、大正一二年に選択科目として「彫塑」が作られた。太平洋画会研究所彫刻部主任であった新海は、亡くなる昭和二年まで講師を続ける。新海の逝去後、昭和三年より太平洋画会研究所彫刻部の教え子である堀進二⁽³⁹⁾が新海の後任として昭和二二年まで、一時中断後三一年から三四年まで講師となった。

このように講師を勤めていた関係であろうか、画家の石井柏亭、彫刻家の新海竹太郎、堀進二による肖像画、肖像彫刻が東京大学学内には多数現存する⁽⁴⁰⁾。

六 その後の行方

旧備品台帳の「備考」欄にはその後の状況が記されている。これを見ると、一つの大きな動きとして、明治四五年二、三月の時点で物品整理が行われたことが解る。何をきっかけとしてこの時期に整理が行われたのであろうか検討したい。

まず建築学科内に目を向けてみると、この時期には講座や講義科目、教員に大きな変化はみられない。ただ唯一、美学を教えていた富尾木知佳⁽⁴¹⁾が大正二二年九月に退官するが、この富尾木の退官が備品整理に関係するとは言い難い。『帝国大学一覽』の建築学列品の説明は「内外家屋及耐震家屋の模型並建築諸式の標本其他画学用模型及臨本等」とすることから、この列品室に保管されていたと考えられるが、列品数は明治四四年には九、二六九点、大正元年には九、四七一点とむしろ増加しており⁽⁴²⁾、この整理は学科全体に関わることはなく、これら一部の標本に限られた整理と考えられる。この明治四五年に行われた標本の移動を整理したい。まず廃棄や売却、移管に先立ち、二月二〇日付で本部へ寒水石彫刻四点が移管されている。寒水石彫刻は石膏に比べ丈夫であり、調度として移管された可能性が考えられる。

次に三月七日付で石膏像が二六点廃棄されている。価格の高いもの（「キ36帆立貝中浮彫額」「キ94旧伊国公使コントフェキ半身」）も含まれていることから、おそらくは破損の度合いがひどく、維持することが不可能であったものを廃棄したのであろう。また、三月二六日付で石膏像二一点が売却されている。帝国大学もしくは文部省管轄機関であれば売却ではなく移管扱いとなるため、売却先はこれら以外となる。

一方の受け手側に目を向けると、石膏像が二〇点、寒水石彫刻が四点、三月七日付で農科大学へ移管されている。当時の農科大学は駒場（現教養学部敷地）にあり、農学科（農業生物学科）、林学科、

獣医学科、農芸化学科、水産学科の五学科より構成されていた⁽¹³⁾。

各学科の講義科目を確認しても、この移管に関連する科目はみられないことから、移管の経緯や目的は現状では不明である。また文科大学へは同日石膏像が五点、寒水石三点が移管されており、その中でも石膏像三点は心理学教室へと移管されている。当時の文科大学は幾度かの改革を経て哲学科、史学科、文学科の三学科に落ち着いていた。心理学教室は哲学科に属していたが、その中でも比較的独立した地位を与えられたという⁽¹⁴⁾。当時の教授は元良勇次郎であり、助教授には元良の弟子である福来友吉がいた。前後して美術にも造詣が深い松本亦太郎が勤めていたが、明治三九年から大正二年の間は京都帝国大学へ赴任していた。農科大学へ移管された石膏像に対し、文科大学、特に心理学教室へ移管された石膏像は、どれも肖像石膏像である。実験心理学を中心として進められていた当時の心理学教育の中で、石膏像は何らかの教育に標本として使用されていたのであるか。また、文科大学へ移管された経緯を考える上で、工科大学助教授であった関野貞が明治四一年から四五年まで日本美術史の講師を務めていたことが挙げられる。このことから、関野が仲介者として移管に際し関わった可能性も考えるべきであろう。

本論においていくつかの可能性を考察したが、今後現存標本や移管先での状況調査を進めることで、この旧備品台帳の有する史料の意味はより明確なものとなるであろう。

〔注〕

- (1) 三好信浩『日本工業教育成立史の研究 近代日本の工業化と教育』昭和五四年、風間書房。
- (2) 鈴木淳編『工部省とその時代』平成一四年、山川出版社。
- (3) 柏原宏紀『工部省の研究 明治初年の技術官僚と殖産興業政策』平成二一年、慶應義塾大学出版会。
- (4) 日本建築学会編『近代日本建築学発達史』昭和四七年、丸善。
- (5) 『建築学大系 建築史学・建築実務』昭和三七年、彰国社。
- (6) 清水慶一『工学寮・工部大学校に於ける建築教育について』『Bulletin of the National Science Museum Physical Sciences & Engineering Ser. E』一九八五年。
- (7) 隈元謙次郎『近代日本美術の研究』昭和三九年、大蔵省印刷局。
- (8) 青木茂『フォントナージと工部美術学校』昭和五三年、至文堂。
- (9) 尾崎尚文『工部美術学校史』『フォントナージと日本の近代美術』平成九年、東京都庭園美術館。
- (10) 金子一夫『工部美術学校における絵画・彫刻教育』『近代日本美術教育の研究 明治・大正時代』平成一一年、中央公論美術出版。
- (11) 大政紀要「工部省 美術（自明治九年／至明治十五年）」
- (12) 高木背水「大野幸彦と堀江正章」『明治洋画史料 懐想篇』昭和六〇年、中央公論美術出版。
- (13) 明治美術研究学会『東京大学工学部建築学科蔵工部美術学校関連作品』昭和六〇年調査。

- (14) 『フォンタネージと日本の近代美術』（東京都庭園美術館）、「東京大学創立一二〇周年展覧会」（東京大学）ともに平成九年。備考欄には廃棄、移管などの情報が昭和四五年まで書き加えられていることから、昭和二六年以降は新規の書き継ぎは行わず、旧備品の管理簿として併用していたと考えられる。
- (16) 明治一五年工部大学校造家学科卒業。明治二〇年より工科大学造家学科の助教となり、後に教授。大正九年退職後も昭和四年まで講師として教育に携わる。（一八六〇～一九四二）。
- (17) 明治二八年帝国大学工科大学造家学科卒業後、奈良県技師を経て明治三四年より工科大学建築学科に戻り教鞭をとる。昭和三年工科大学退職後は東方文化学院にて中国、韓国の建築調査を進める。（一八六七～一九三五）。
- (18) 前掲（13）。
- (19) 別項目「ウ」印「構造雛形標本」には、明治三八年三月一日に同じく新海により「ウ133コムポジット式裝飾雛形」一組二ヶ一〇円、「ウ134タスカン式裝飾雛形」一組二ヶ五〇円が納入されている。
- (20) 新海竹蔵撰『新海竹太郎傳』昭和五六年。田中修二『彫刻家・新海竹太郎論』平成一四年、東北出版企画。
- (21) 『中丸精十郎とその時代』昭和六三年、山梨県立美術館。
- (22) 中丸家は代々家督を継ぐものが精十郎を名乗る。精十郎は六世であり、蓮一は実際には七世となる。
- (23) 金子一夫「中丸精十郎と西洋画教育」『近代日本美術教育の研究』明治時代』平成四年、中央公論美術出版。
- (24) 築地英国商館の店員から高田商店を設立。本郷湯島の自邸（明治三三年）、赤坂の青山別邸（明治三四年）はコンドルの設計に係り、三菱三号館には高田商會が設けられた。明治四二年からは大博覧会評議員も勤めている。（一八五二～一九二一）。
- (25) ブロンズスタジオ高橋裕二氏のご教示による。
- (26) 旧備品台帳「キ22足」、「キ141立像」。
- (27) 『工部省第三回年報』自明治十年七月至同十一年六月。
- (28) 前掲（10）、寺内信一自筆ノート「重要参考筆記」。
- (29) 前掲（10）。
- (30) 前掲（7）。また、「キ14半身浮彫楕円額」には「Ragusa 79」と刻記がある。
- (31) 工部美術学校画学科入学後、明治一三年には画学助手となり、廃校とともに一六年修業。明治二三年には親類の大野家の養子となり、大野姓を名乗る。（一八五七～一八九二）。
- (32) 『THE CALENDAR OF THE IMPERIAL COLLEGE OF ENGINEERING, TOKYO』一八八四／一八八五。なお、一八八三年の同書には曾山の名前は記載されていない。
- (33) 第一年、二年は通年科目、三年は一、二学期のみ。明治二三年のみ三年での講義はなくなる。
- (34) 拙稿「教育から読み解く工学・建築・美術認識」『関野貞アジア踏査』平成一七年、東京大学総合研究博物館・東京大学出版会。

- (35) 「工部美術学校画学生徒改級表」小山家蔵。前掲(8)青木論文参照。
- (36) 前掲(12)。
- (37) 浅井忠らに師事し太平洋画会に参加。後に東京美術学校に入学するが中退。ヨーロッパ留学後、二科会を設立する。(一八八二〜一九五八)。
- (38) 東京高等工業学校卒業後助教となるが、ヨーロッパに留学。昭和十一年には石井柏亭らとともに一水会を設立する。(一八九八〜一九九六)。
- (39) 太平洋画会研究所彫刻部に学び、新海竹太郎に師事。(一八九〇〜一九七八)。
- (40) 石井柏亭「山川義太郎像」(昭和二年)、「石原忍像」(昭和七年)。新海竹太郎「青山胤通像」(大正九年)、「松井直吉像」(大正四年)、「ジヨサイア・コンドル像」(大正十一年)、「渡辺渡像」(大正十一年)、「井口在屋像」(大正十四年)。
- 堀進二「浜尾新像」(昭和八年)、「瀧精一像」(昭和九年)、「小金井良清像」(昭和十二年)、「小藤文次郎像」(昭和十二年)、「古市公威像」(昭和十二年)、「石原忍像」(昭和十五年)、「栗山重信像」(昭和十五年)、「都築正男像」(昭和二十八年)。
- 以上『博士の肖像』平成一〇年、東京大学総合研究博物館より。
- (41) 明治三十一年東京帝国大学文科大学卒業後、府立第一中学校教授を経て東京音楽学校教授に就任。建築学科には明治三十三年より大正二年まで講師を務めた。(一八七四〜一九一七)。
- (42) 『東京帝国大学一覽』。
- (43) 『東京大学百年史』部局史二、昭和六二年。
- (44) 『東京大学百年史』部局史一、昭和六一年。
 (つのだ まゆみ 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻)

表1 卍印 美術石膏製彫刻標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		㊦1	フレジヲサンデスチメジメシスサ	1	1.895		⊕
明治22年4月1日		㊦2	手	1	1.156	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦3	スベケチー	1	2.495		⊕
明治22年4月1日		㊦4	花折枝浮彫	1	2.340	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦5	メンソール飾物	1	1.130		⊕
明治22年4月1日		㊦6	足	1	0.500	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦7	欧州婦人半身浮彫額	1	5.110		⊕
明治22年4月1日		㊦8	欧州婦人ノ小額	1	6.300	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦9	木葉写真	1	0.375	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦10	セリ持飾	1	0.250		⊕
明治22年4月1日		㊦11	丸形飾	1	0.350		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦12	木葉写真	1	0.100	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦13	セリ持飾	1	0.250		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦14	半身浮彫楕円額	1	29.500		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦15	日本婦人半身浮彫額	1	5.310	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦16	フレジヲシビラアルバー	1	0.100		⊕
明治22年4月1日		㊦17	スベケチー	1	2.495		⊕
明治22年4月1日		㊦18	リンソロピコラ飾物	1	0.756		⊕
明治22年4月1日		㊦19	獅子	1	1.500	昭和34年3月修理 ス	
明治22年4月1日		㊦20	腕	1	1.437	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦21	ピラストリニジサンアルセロ	1	1.330		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦22	足	1	0.320	昭和34年3月修理 大内芳	⊕
明治22年4月1日		㊦23	スベケチー	1	2.495		⊕
明治22年4月1日		㊦24	楕円形欧州婦人額	1	1.000	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦25	メンソール飾物	1	0.950		⊕
明治22年4月1日		㊦26	欧州婦人半身浮彫額	1	21.200		⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦27	古代立物崩	1	0.453		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦28	狐頭	1	0.500		⊕
明治22年4月1日		㊦29	中心飾	1	0.100		⊕
明治22年4月1日		㊦30	中心飾	1	0.100		⊕
明治22年4月1日		㊦31	中心飾	1	0.100		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦32	陶器製立像	1	6.500		⊕
明治22年4月1日		㊦33	セリ持飾	1	3.502		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦34	狐頭	1	0.500	明治45年3月13日 中央部へ保管転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦35	中古立物崩片	1	0.730		⊕
明治22年4月1日		㊦36	帆立貝中浮彫額	1	21.200	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦37	メンソール飾物	1	0.566		⊕
明治22年4月1日		㊦38	鷺浮彫額	1	6.360	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦39	風景馬ノ額	1	5.070	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦40	スベケチー	1	2.495		⊕
明治22年4月1日		㊦41	セリ持飾	1	0.100		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦42	足	1	1.270	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦43	セリ持飾	1	0.100		⊕ 二重線
明治22年4月1日		㊦44	ピラストリニジサンアルセロ	1	1.330		⊕
明治22年4月1日		㊦45	パウソリアルデルカラデラプムテ ユルパチカノ	1	1.050		⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦46	手解剖	1	1.600	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦47	脛	1	1.275	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦48	近世風ピラストル	1	18.000		⊕
明治22年4月1日		㊦49	アカント葉付飾	1	0.150		⊕
明治22年4月1日		㊦50	ホンテロビエー小児頭	1	5.400		⊕
明治22年4月1日		㊦51	手	1	0.930	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦52	風景馬ノ額	1	2.100	明治45年3月7日 農科大学へ転換	⊕ 一重線

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		㊦53	手	1	0.800		△
明治22年4月1日		㊦54	小半身像	1	6.450		△
明治22年4月1日		㊦55	手	1	0.723	明治45年3月26日売却	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦56	頭	1	2.520	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦57	シセロン半身像	1	8.430	明治45年3月7日文科大学心理学教室へ保管移管	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦58	柱頭飾	1	0.350	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦59	ミケランジェロノ頭	1	4.840		△
明治22年4月1日		㊦60	羅風及希臘風ノ飾	1	0.209		△ 一重線
明治22年4月1日		㊦61	コロネチー	1	2.043		○ 一重線
明治22年4月1日		㊦62	希臘風ノ飾	1	0.250		△
明治22年4月1日		㊦63	ペロ半身	1	7.334	明治45年3月7日廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦64	ピラストリニジサンアルセロ	1	1.745		△
明治22年4月1日		㊦65	希臘風ノ飾	1	1.330		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦66	ピラストリセジサンアルセロ	1	0.100		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦67	メンソール飾物	1	1.000		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦68	フレジヲグランテ	1	4.900		△
明治22年4月1日		㊦69	ステュジオテヘルペロ鷲	1	15.488		△
明治22年4月1日		㊦70	ピラストリニジサンマルセロ	1	1.330		△
明治22年4月1日		㊦71	羅風及希臘風ノ飾	1	2.550		△
明治22年4月1日		㊦72	メンソール飾物	1	1.000		△
明治22年4月1日		㊦73	ペロ半身	1	6.665	明治45年3月7日廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦74	コロネチー	1	2.043		△
明治22年4月1日		㊦75	柱頭飾	1	0.150		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦76	半身像	1	2.500		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦77	柱頭飾	1	0.500	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦78	古代立物崩	1	0.590		△
明治22年4月1日		㊦79	タルガコンレヲネ	1	0.690		△
明治22年4月1日		㊦80	羅馬及希臘風飾	1	1.115		△
明治22年4月1日		㊦81	古代立物崩	1	7.000		△
明治22年4月1日		㊦82	アンス	1	6.500		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦83	近世風致模様付花瓶	1	16.800		△
明治22年4月1日		㊦84	シャンチナテロ小児頭	1	1.500		△
明治22年4月1日		㊦85	欧州有名ナル詩人半身像	1	2.500		△
明治22年4月1日		㊦86	足	1	1.470	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦87	手	1	0.551	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦88	インヂバチカノ	1	6.550		△
明治22年4月1日		㊦89	日本童子ノ全身	1	6.160	明治45年3月7日文科大学へ保管転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦90	小立像解剖ベンベニユトリコミ	1	5.488		△
明治22年4月1日		㊦91	亀	1	2.150	明治45年3月7日農科大学へ転換	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦92	ベニユスギシヤ	1	5.630		△
明治22年4月1日		㊦93	トルゼットベニユストバチカノ無頭婦人像	1	2.450		△ 一重線
明治22年4月1日		㊦94	旧伊国公使コントフェキ半身像	1	27.100	明治45年3月7日廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦95	腰掛台片足	1	3.480		△
明治22年4月1日		㊦96	コンテススケル半身像	1	24.500		△
明治22年4月1日		㊦97	足	1	0.269	明治45年3月26日売却	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦98	牛	1	1.200		△ 二重線
明治22年4月1日		㊦99	牛	1	3.750		△
明治22年4月1日		㊦100	欧州婦人アリアンス半身	1	11.000		△
明治22年4月1日		㊦101	牛	1	2.848		△
明治22年4月1日		㊦102	ベニストカブア	1	6.300		△
明治22年4月1日		㊦103	大半身ヘルセラズトジカノバ	1	3.872		△
明治22年4月1日		㊦104	足	1	1.000		△
明治22年4月1日		㊦105	虎	1	2.500		△
明治22年4月1日		㊦106	足	1	0.500	明治45年3月7日廃棄	△
明治22年4月1日		㊦107	サンジュラルジュ	1	4.840		△
明治22年4月1日		㊦108	足	1	2.000	明治45年3月26日売却	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦109	婦人半身像	1	11.400		△ 一重線

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		キ110	ジユテートバチカノ半身	1	6,500	明治45年3月7日 文科大学心理学教室 へ保管転換	一重線
明治22年4月1日		キ111	近世風シヤウビトウ	1	7,800		△
明治22年4月1日		キ112	飾ノ台	1	4,200		△
明治22年4月1日		キ113	バウソリアルデルカムデラクムデ ユルバチカノ	1	5,000		△
明治22年4月1日		キ114	羅馬及希臘風ノ飾	1	2,220		△
明治22年4月1日		キ115	方形屋根飾	1	7,500	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		キ116	バウソリアルデルカムデラクムデ ユルバチカノ	1	0,990		△
明治22年4月1日		キ117	近世風シヤビトウ	1	6,900		二重線
明治22年4月1日		キ118	飾ノ台	1	3,700		△
明治22年4月1日		キ119	柱ノ頭	1	0,290		二重線
明治22年4月1日		キ120	セリ持飾	1	0,150		△
明治22年4月1日		キ121	セリ持飾	1	0,150		二重線
明治22年4月1日		キ122	台	1	0,100		二重線
明治22年4月1日		キ123	羅馬及希臘飾	1	0,959		△
明治22年4月1日		キ124	立像	1	30,000	昭和31年3月修理	△
明治22年4月1日		キ125	一世ナポレオン肖像	1	38,600	明治45年3月7日 文科大学へ保管転換	一重線
明治22年4月1日		キ126	欧州老僧半身像	1	14,400		△
明治22年4月1日		キ127	ミケランジュ肖像	1	14,850	明治45年3月7日 文科大学心理学教室 へ保管転換	一重線
明治22年4月1日		キ128	中心飾アカント葉付	1	0,100		二重線
明治22年4月1日		キ129	羅馬及希臘風飾	1	0,870		△
明治22年4月1日		キ130	欧州近世風ノ花飾	1	9,000		△
明治22年4月1日		キ131	アカント葉付置物台	1	9,600		△
明治22年4月1日		キ132	アルナードデュブレシヤ半身	1	15,300		△
明治22年4月1日		キ133	足	1	1,115		△
明治22年4月1日		キ134	中心飾アカント葉付	1	0,100		二重線
明治22年4月1日		キ135	千五百年代家屋飾	1	16,500	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		キ136	半身像アポロミエル	1	6,200		二重線
明治22年4月1日		キ137	ミネルプトバチカノ	1	5,400		二重線
明治22年4月1日		キ138	ジェラデルバチカノ頭	1	8,502		△
明治22年4月1日		キ139	大立像ジスコポデルバチカノ	1	45,496	昭和31年3月修理	△ 一重線
明治22年4月1日		キ140	ラテメント半身像	1	14,100		△
明治22年4月1日		キ141	立像	1	35,603	昭和34年3月修理 (大内芳)	
明治22年4月1日		キ142	女形立像	1	5,050		△
明治22年4月1日		キ143	小児ノ頭	1	5,675		△
明治22年4月1日		キ144	アポロジベルベデル半身	1	7,740	昭和34年3月修理	
明治22年4月1日		キ145	メンソール飾物	1	1,080		△
明治22年4月1日		キ146	スパルタアニベーラ全身	1	15,480		△
明治22年4月1日		キ147	ミネルプトバチカノ半身像	1	3,360	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		キ148	メンソール飾物	1	0,800		△
明治22年4月1日		キ149	欧州名医ノ像	1	7,500		△
明治22年4月1日		キ150	持飾	1	0,150		二重線
明治22年4月1日		キ151	持飾	1	0,150		二重線
明治22年4月1日		キ152	持飾	1	0,150		△
明治22年4月1日		キ153	持飾	1	0,150		一重線
明治22年4月1日		キ154	持飾	1	0,150		二重線
明治22年4月1日		キ155	メンソール飾物	1	0,150		二重線
明治22年4月1日		キ156	メンソール飾物	1	1,130		二重線
明治22年4月1日		キ157	メンソール飾物	1	2,000		二重線
明治22年4月1日		キ158	小立像アンチノテルカン	1	5,000		△
明治22年4月1日		キ159	ナシトシナボリ	1	5,000		△
明治22年4月1日		キ160	メンソール飾物	1	0,870		二重線
明治22年4月1日		キ161	小児草花付丸形額	1	2,500		△
明治22年4月1日		キ162	近世風円形丸形額縁	1	3,420		△
明治22年4月1日		キ163	足	1	1,710	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		キ164	シセロン	1	4,320		△
明治22年4月1日		キ165	シセロン	1	4,320		△
明治22年4月1日		キ166	羅馬国風飾	1	0,800		
明治22年4月1日		キ167	アンチワリー	1	0,755		
明治22年4月1日		キ168	天然鳥ノ模形	1	1,200	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		キ169	アカント葉付家屋飾	1	7,500	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		㊦170	木製彫刻	1	4,000		⊕
明治22年4月1日		㊦171	木製彫刻	1	6,000	明治45年3月7日 農科大学へ移管	一重線
明治22年4月1日		㊦172	木製彫刻	1	3,500		⊕
明治22年4月1日		㊦173	木製彫刻	1	4,000		⊕
明治22年4月1日		㊦174	木製彫刻	1	4,000		⊕
明治22年4月1日		㊦175	木製彫刻	1	5,000	明治45年3月7日 農科大学へ移管	一重線
明治22年4月1日		㊦176	木製彫刻	1	5,000		⊕
明治22年4月1日		㊦177	木製彫刻	1	5,000	明治45年3月7日 農科大学へ移管	一重線
明治22年4月1日		㊦178	木製彫刻	1	6,000	明治45年3月7日 農科大学へ移管	一重線
明治22年4月1日		㊦179	木製彫刻	1	12,000	明治45年3月7日 農科大学へ移管	一重線
明治22年4月1日		㊦180	迫り持飾	1	見積 0.200		⊕
明治22年4月1日		㊦181	迫り持飾	1	見積 0.200		⊕
明治22年4月1日		㊦182	迫り持飾	1	見積 0.200		二重線
明治22年4月1日		㊦183	迫り持飾	1	見積 0.200		二重線
明治22年4月1日		㊦184	迫り持飾	1	見積 0.200		⊕
明治22年4月1日		㊦185	迫り持飾	1	見積 0.200		⊕
明治22年4月1日		㊦186	迫り持飾	1	見積 0.200		⊕
明治22年4月1日		㊦187	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦188	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦189	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦190	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦191	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦192	柱頭	1	見積 0.300		二重線
明治22年4月1日		㊦193	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦194	柱頭	1	見積 0.300		⊕
明治22年4月1日		㊦195	ランプ中心飾	1	見積 0.150		⊕
明治22年4月1日		㊦196	ランプ中心飾	1	見積 0.150	大正3年11月25日 破損廃棄	一重線
明治22年4月1日		㊦197	ランプ中心飾	1	見積 0.150		⊕
明治22年4月1日		㊦198	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦199	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦200	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦201	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦202	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦203	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦204	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦205	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦206	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦207	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦208	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦209	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦210	手	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕
明治22年4月1日		㊦211	手	1	見積 0.150		⊕
明治22年4月1日		㊦212	手	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	一重線
明治22年4月1日		㊦213	足	1	見積 0.150		⊕
明治22年4月1日		㊦214	足	1	見積 0.150		一重線
明治22年4月1日		㊦215	足	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦216	足	1	見積 0.150	明治45年3月7日 廃棄	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦217	足	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦218	足	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線
明治22年4月1日		㊦219	足	1	見積 0.150	明治45年3月26日 売却	⊕ 一重線

年月日	納人	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		㊦220	馬	1	見積0.400		一重線
明治22年4月1日		㊦221	馬	1	見積0.400		一重線
明治22年4月1日		㊦222	馬	1	見積0.400		△
明治22年4月1日		㊦223	馬	1	見積0.400		△
明治22年4月1日		㊦224	犬	1	見積0.300		二重線
明治22年4月1日		㊦225	犬	1	見積0.300		△
明治22年4月1日		㊦226	犬	1	見積0.300		△
明治22年4月1日		㊦227	犬	1	見積0.300		△
明治22年4月1日		㊦228	牛	1	見積0.250		△
明治22年4月1日		㊦229	牛	1	見積0.250		△
明治22年4月1日		㊦230	山羊	1	見積0.200		△
明治22年4月1日		㊦231	具	1	見積0.200	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦232	腕	1	見積0.200	明治45年3月26日 売却	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦233	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦234	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦235	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦236	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦237	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦238	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦239	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦240	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦241	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦242	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦243	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦244	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦245	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦246	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦247	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦248	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦249	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦250	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦251	家屋裝飾一部分	1	見積0.100	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦252	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦253	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦254	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦255	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦256	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦257	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦258	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦259	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦260	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦261	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦262	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦263	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦264	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦265	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦266	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦267	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦268	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦269	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦270	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦271	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦272	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦273	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦274	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦275	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦276	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦277	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦278	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦279	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦280	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦281	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦282	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦283	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦284	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦285	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦286	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦287	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦288	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦289	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△

年月日	納人	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		㊦290	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦291	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦292	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦293	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦294	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦295	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦296	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦297	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦298	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦299	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		一重線
明治22年4月1日		㊦300	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦301	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦302	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦303	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦304	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦305	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦306	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦307	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦308	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦309	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦310	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦311	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦312	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦313	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦314	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦315	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦316	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		二重線
明治22年4月1日		㊦317	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦318	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦319	家屋裝飾一部分	1	見積0.100		△
明治22年4月1日		㊦320	婦人首	1	見積0.200	有	二重線
明治22年4月1日		㊦321	バラ枝	1	見積0.100	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		㊦322	額縁形	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦323	額縁形	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦324	額縁形	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦325	額縁形	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦326	額縁形	1	見積0.500		二重線
明治22年4月1日		㊦327	顔	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦328	顔	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦329	彫刻立像	1	見積0.500		△
明治22年4月1日		㊦330	菓物ノ実	1	見積0.200	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦331	額女形	1	見積1.000	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
明治22年4月1日		㊦332	額女形	1	見積1.000	明治45年3月7日 廃棄	△ 一重線
				332	902.533		
明治37年4月18日	新海竹太郎	㊦333	コリンシアン、キヤピタル (希臘)	1	30.000		△
明治37年4月18日	新海竹太郎	㊦334	コリンシアン、キヤピタル (羅馬)	1	20.000		二重線
明治37年4月18日	新海竹太郎	㊦335	アイオニック式キヤピタル	1	10.000		△
明治37年4月18日	新海竹太郎	㊦336	ドーリック式キヤピタル	1	5.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦337	コリンシアン式エンタブラチュア (希臘)	1	30.000		二重線
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦338	アイオニック式エンタブラチュア (希臘)	1	30.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦339	アイオニック式エンタブラチュア (希臘)	1	20.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦340	コリンシアン式エンタブラチュア (羅馬)	1	20.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦341	コリンシアン式ベース (羅馬)	1	20.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦342	アイオニック式ベース (希臘)	1	15.000		△
明治37年12月7日	新海竹太郎	㊦343	コリンシアン式ベース (希臘)	1	15.000		○ 二重線
明治38年3月10日	中丸精十郎	㊦344	モザイック標本 (人物)	1	53.825		△
明治38年3月10日	中丸精十郎	㊦345	モザイック標本 (模様)	1	70.000	34年3月修理、大内	
明治38年3月10日	中丸精十郎	㊦346	モザイック標本 (模様)	1	29.500		△
明治39年11月12日	山本鹿	㊦347	観音像	1組6ヶ	7.000 (破損)		△
				347 352			
明治40年11月13日	中丸精十郎	㊦348	着衣石膏	1	50.000	寄贈	△
明治41年3月6日	高田慎蔵	㊦349-360	ドナテロ作柱飾羽目天人像	12	96.000		二重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	㊦361	女神ノ頭	1	15.000		二重線

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ362	ベルガモン王宮ノ舞女	1	70,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ363	マヤノ作ヨハネ像	1	75,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ364	ミケルアンゼロ作アポロ像	1	83,000		一重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ365	ドナテルロ作ヨハネ像	1	25,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ366	シュルツテル作フリードリヒ一世像	1	50,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ367	ヴェロキオ作薔薇ヲ持テル少女	1	18,000	大正3年11月25日 破損廃棄	△ 一重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ368	女ノ頭	1	4,000	大正3年11月25日 破損廃棄	一重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ369	マリエーター、ストロッチ胸像	1	15,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ370-373	ドナテルロー作基督教標号飾	4	52,000		
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ374-377	アンドレア、ロビア作丸形飾	4	332,000		
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ378	ロビヤ作聖母ト小兒ノ像浮彫	1	35,000	昭和34年3月修理 す	○ 二重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ379	ドナテルロー作聖母小兒	1	18,000		
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ380	ミケルアンゼロ作聖母小兒	1	7,500	大正3年11月25日 破損廃棄	△ 一重線
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ381	ロゼリノ作聖母小兒高肉彫	1	20,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ382	ロビヤ作小兒ノ写生	1	12,000		△
明治41年3月6日	高田慎蔵	キ383	ヴェロキオ作聖母小兒	1	35,000		△
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ384	アカイヤ風樋飾	1	0,700		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ385	柱飾上部	1	3,000		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ386	柱飾中央部	1	4,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ387	フリーズ(小壁)	1	9,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ388	鬼板飾	1	3,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ389	鬼板飾	1	10,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ390	鬼板飾	1	6,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ391	フリーズ	1	1,500		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ392	浮彫裝飾	1	1,500		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ393	フリーズ	1	4,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ394	フリーズ	1	12,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ395	男ノ仮面	1	1,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ396	羽目飾	1	2,000		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ397	羽目飾	1	9,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ398	小壁飾	1	2,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ399	小壁飾	1	2,000		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ400	カルツーシ飾	1	11,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ401	アカント飾	1	4,200		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ402	コリント柱頭飾	1	7,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ403	松明受飾	1	16,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ404	アカント飾	1	8,500		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ405	ローマネスク式柱頭飾	1	6,600		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ406	希臘ドリア風柱頭	1	10,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ407	希臘イオニア風柱頭	1	20,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ408	希臘コリント風柱頭	1	25,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ409	壁飾羽目	1	17,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ410	壁飾羽目	1	17,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ411	壁飾羽目	1	20,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ412	カルツーシ飾	1	20,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ413	羽目飾	1	2,200		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ414	垂下飾	1	5,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ415	舞踏セルパッカス	1	5,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ416	顔面	1	2,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ417	アカイヤ風ジュピテルの頭	1	9,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ418	獅子	1	6,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ419	本ノ上表紙	1	2,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ420	沈彫裝飾	1	1,500		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ421	飾皿	1	10,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ422	把手附飾瓶	1	2,000		二重線
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ423	銅像型	1	3,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ424	舞女カラチスコス	1	10,000		
明治41年5月10日	高田慎蔵	キ425	裸体女	1	5,000		
				425	442		
			廃棄等ノ分控除		73		
			改計		369		
			廃棄ノ分控除		6		
			改計		363		
大正13年11月6日	遠藤於菟ヨリ寄贈	キ426	宋代聖親世音胸像	1	30,000		
大正15年7月20日	宮嶋一	キ427	ミュロー・ヴェナス	1	150,000	31.3 修理	
			昭和2年10月末日現在計		353		
			昭和4年11月9日現在計		353		

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
昭和9年12月8日	大内芳	キ428	キリストの首	1	15,000		二重線
昭和9年12月8日	大内芳	キ429	二面像	1	15,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ430	ヴィナス胸像	1	10,000		○ 二重線
昭和9年12月8日	大内芳	キ431	アグリッパ胸像	1	10,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ432	埃及座像	1	15,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ433	ダンテの面	1	5,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ434	ギリシヤ少女胸像	1	10,000	昭和34年3月修理ス(大内芳)	
昭和9年12月8日	大内芳	キ435	セネカの首	1	10,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ436	ダビンチ胸像	1	10,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ437	メヂチの胸像	1	20,000		
昭和9年12月8日	大内芳	キ438	ドナテルロ作小供胸像	1	10,000		二重線
昭和9年12月8日	大内芳	キ439	ユーゴーの面	1	10,000		二重線
昭和9年12月8日	大内芳	キ440	青年胸像	1	10,000		
昭和11年6月20日	大内芳	キ441	モヘッシー面	1	1,500		
昭和11年6月20日	大内芳	キ442	ヴィナス面	1	1,200		
昭和11年6月20日	大内芳	キ443	シーザー面	1	1,500	34.1.26 破損に付き廃棄す	
昭和11年6月20日	大内芳	キ444	ベトーベン面	1	1,200		
昭和11年6月20日	大内芳	キ445	モリエール面	1	3,000		二重線
			昭和15年12月末日現在	371			
昭和16年2月1日	大内芳	キ446	デモステネス	1	0,350		一重線
昭和16年2月1日	大内芳	キ447	アポロ	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ448	アリエッタストロツチ	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ449	アーキベンコ	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ450	ホーマー	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ451	ベトーベン	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ452	ベトーベン	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ453	手	1	0,350		二重線
昭和16年2月1日	大内芳	キ454	マルス	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ455	ダイアナ	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ456	観音面	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ457	小供立像	1	0,350		一重線
昭和16年2月1日	大内芳	キ458	ヴィナス半面	1	0,350		△
昭和16年2月1日	大内芳	キ459	メヂチ	1	0,350		二重線
昭和16年2月1日	大内芳	キ460	女トルソ	1	0,350	34.3 修理ス、大内芳	

記述がある欄のみ書き出した。
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。

表2 ノ印 寒水石彫刻標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		ノ1	方形模細工付台	1	6,600		(△)
明治22年4月1日		ノ2	方形飾付台	1	8,500		(△)
明治22年4月1日		ノ3	ミケランジュ頭台共	1	15,000	明治45年2年20日 本部へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ4	近世風模様付花瓶	1	36,000		(△)
明治22年4月1日		ノ5	婦人半身像	1	95,000		(△)
明治22年4月1日		ノ6	八角柱	1	19,500		(△)
明治22年4月1日		ノ7	カノパノ足	1	20,000	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ8	子供花付浮彫り	1	14,500	明治45年2年20日 本部へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ9	メンゾロ飾	1	15,000		(△)
明治22年4月1日		ノ10	ホボロ飾	1	7,250	明治45年3月7日 文科へ保管転換	一重線
明治22年4月1日		ノ11	花盛	1	15,500	明治45年2年20日 本部へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ12	未落成台	1	5,500		(△)
明治22年4月1日		ノ13	アカント飾	1	8,400	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ14	和洋文字彫刻ノ額	1	8,500	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ15	八角柱	1	10,500		(△)
明治22年4月1日		ノ16	新月形家飾	1	3,600	明治45年3月7日 農科大学へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ17	婦人半身浮彫額	1	8,000	明治45年2年20日 本部へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ18	金魚	1	8,200	明治45年3月7日 文科へ転換	一重線
明治22年4月1日		ノ19	金魚浮彫	1	6,700	明治45年3月7日 文科へ保管転換	一重線
明治22年4月1日		ノ20	手洗鉢	1	49,000		(△)
明治22年4月1日		ノ21	名刺入	1	16,000		(△)
明治22年4月1日		ノ22	丸形手洗鉢	1	24,000		(△)
				22	401,250		
			控除	11			
				11			

記述がある欄のみ書き出した。
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。